

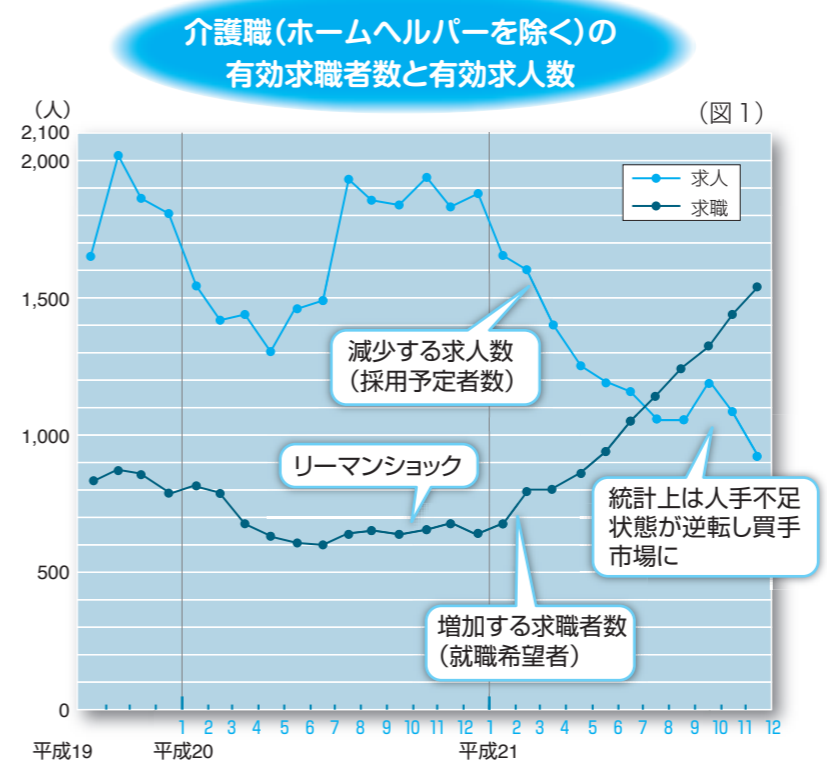
踏み出そう！福祉の仕事へ

「自分自身の成長とやりがいのために」

雇用情勢の悪化に伴って仕事を探している方には厳しい状況が続いています。福祉業界では、特に介護職を中心にここ5年ほど深刻な人手不足状態が続いていました。今月号は、福祉の仕事に関する就職状況の一端と現場からのメッセージをお伝えします。

1 福祉の仕事に就きたい人が増えていますが...

本会が運営する埼玉県福祉人材センター(以下センター)では福祉の仕事に関する就職の紹介斡旋を行っています。センターに登録している介護職(ホームヘルパーを除く)の有効求人数と有効求職者数の推移を見てみましょう。(図1)



2 窓口から見えること

埼玉県社会福祉協議会 福祉人材センター 海老原由紀江

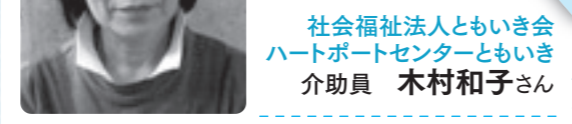
リーマンショック以降、異業種から転職を希望する方が目立ち、若い世代では派遣切りにあった方、中高年世代では早期退職を余儀なくされた方などが増えました。昨年度は求職登録時に在職中の方が45%だったのに対し、今年度は68%が無職の状態に登録されています。(図2・3)

求職者は求人票を見ると、勤務体制、休日体制、給与体制などに今までとのギャップを感じ、戸惑いながらもこれまでの社会人としての経験、特にヒューマンスキルを活かせる場であることに「やりがい」を見つけて、転職を成功させていらっしゃいます。

なお、現場では自分より年齢が若い職員が先輩になることも多いので、柔軟に対応でき、学ぼう、成長しようという気持ちも大切です。

3 設計事務所で17年働いてから福祉職に

「他分野からの転職で福祉の仕事に就いた先輩から」



私は、設計事務所の職員から身体障害者福祉の仕事に転職しました。不安でしたが「自分の成長につながるかも」と飛び込みました。最初の6か月くらいは慣れることが大変でしたが現場で覚えようと思いました。その後、現在の職場に来て2年くらいになります。

先輩職員に教わったのはもちろんですが、障害の状態は個々で違うので利用者に介助方法を教えてもらいました。「利用者が先生」という意識でしたし、それは今も変わりません。「手伝わってもらえて良かった」と言われると続けていこうと思えます。

福祉の仕事に就こうとしている人には怖がらずに挑戦して欲しいです。考えるよりも一歩踏み出す勇気が大事だと思います。

4 先輩職員による個別指導で支援

「採用する施設の立場から」



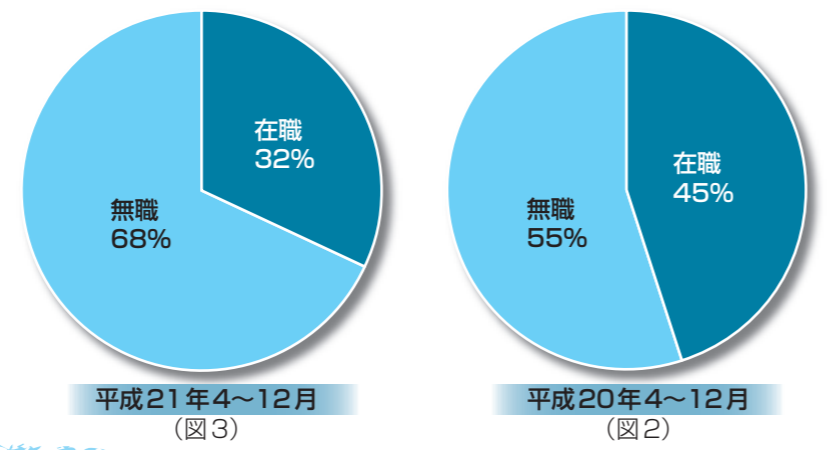
社会福祉法人永寿荘 採用担当 安藤早紀子さん

採用活動は現場スタッフと協力し、一緒に行っています。福祉人材センターの合同面接会にも現場スタッフと共に参加します。これは就職を希望される方に現場のリアルな想いを伝えるためです。自分自身が介護の現場で働いていた経験も生かし、介護職の良いところも大変さも正直にお話しするように心がけています。

また、数年前からチューター制度※を取り入れ、新入スタッフ一人一人にチューターを配置しています。これによって既存スタッフには後輩を育てる意識が生まれ、新入スタッフの成長を実感することもでき、そのことがスタッフのやりがいや離職防止にもつながっているようです。

※この場合は新規職員の個人指導を先輩職員が担当するしくみ

センター求職登録者における在職と無職の割合



5 自分自身の成長とやりがいのために

統計上では深刻な人手不足を脱しているとはいえ、埼玉県は今後急速に高齢者人口が増え、必然的にそのための福祉サービスを提供する人材を確保し、養成していくことが大きな課題です。

ともいきの木村さんのように、最初は不安を持ちながらも自分の成長を信じて、転職し、仕事を長く続けている方も多くいます。永寿荘の安藤さんたちのように採用前から仕事の良いことも大変なこともリアルに伝えたり、採用後も先輩職員が後輩職員を育てたりしながら、やりがいづくりを進める職場もたくさんあります。

本会では今後も、多くの方がセンターを上手に利用し、福祉の仕事に一歩踏み出してもらえ、そのことを応援しています。